

中期目標・中期計画（素案修正）

岐阜大学

平成27年10月9日

中期目標	中期計画
<p>(前文)</p> <p>[理念]</p> <p>岐阜の地は、清流の国と称される豊かな自然に恵まれ、東西文化が接触する地理的条件や歴史的な背景による多様な文化と技術を創造し、伝承してきた。岐阜大学は、岐阜の地のこのような特性を継承するとともに、「人が育つ場所」という風土の中で「学び、究め、貢献する」人材を社会に提供する。そして法人自体も「学び、究め、貢献する」地域にとけこむ大学であるべきことを理念とする。</p> <p>岐阜大学は、全ての学部・研究科が1つのキャンパスにある特徴を教育・研究の両面に活かし、特に、高度な専門職業人の養成に主眼を置いた教育、教育の基盤としての質の高い研究、地域に根ざした国際化を展開する。さらに、これらの成果を地域還元することなどにより、地域社会の活性化の中核的拠点として、地方創生の一翼を担う。</p> <p>[目標]</p> <p>1. 教育</p> <p>岐阜大学は、学生の主体的な学びを推進し、教育の質保証システムを充実させ、高度な専門職業人の養成と地域単位での Teach for Communities を実現する。理工系の大学院修士課程に、デザイン思考の教育を導入し、リベラルアーツに関する共通教育を重点的に行うことによってイノベーションを支える人材の養成を強く進める。また、国際水準の医学教育開発の推進などに重点的に取り組む。</p> <p>2. 研究</p> <p>岐阜大学は、教育の基盤としての質の高い研究活動をそれぞれの分野で着実に実践する。その中でも本学の強みである生命科学分野、環境科学分野、ものづくり分野における岐阜大学の独創的な研究領域の先進的研究拠点形成を目指し、その成果を社会に還元する。</p> <p>3. 国際化</p> <p>岐阜大学は、地域に根ざした国際化と成果の地域還元によってグローバル化を実現する。多文化共生型による国際教養コースの設置、日本人学生と留学生の混在型教育の充実、留学生の組織化や就職支援の充実など、国際化につながる施策を推進する。</p> <p>4. 社会貢献</p> <p>岐阜大学は、地域志向を重視した教育、研究を実践し、国際化を推進</p>	

<p>することにより地域社会を支える。特に「地」×「知」の拠点（COC）整備事業は、県内外の他大学、自治体、地元企業等との連携を拡大したCOCコンソーシアムを形成することにより、地方創生推進事業への取り組みを一層量的に増大、質的に深化させる。また、大学病院を中心とした地域における高度医療拠点機能のさらなる充実、岐阜県と連携した地域社会への貢献事業を推進する。</p>	
<p>I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標</p>	<p>I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置</p>
<p>1 教育に関する目標</p>	<p>1 教育に関する目標を達成するための措置</p>
<p>(1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標</p>	<p>(1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標を達成するための措置</p>
<p>① 地域の教育を支える人材、地域及び世界に貢献できる人材、豊かな国際感覚を備えた人材、及び生命科学分野、環境科学分野、ものづくり分野における人材を養成する。</p>	<p>①-1 地域の教育を支える人材を養成するため、理論と実践の往還型学修（ACT プラン）の教育効果をさらに高めることにより、ミッションの再定義に記載した教育学部卒業生の岐阜県における小学校教員の占有率を40%確保する。教職大学院においては教員就職率100%を目指すとともに、岐阜県教育委員会と連携した学校管理職養成コースを平成29年度までに設置する。</p> <p>①-2 医学分野においては、地域及び世界に貢献できる人材を養成するため、医療者教育フェローシップ・プログラムの構築など教育関係共同利用拠点としての取組を推進し、第3期中期目標期間中に同プログラムへの参加者数を120名以上確保する。獣医学分野においては、鳥取大学との連携による共同獣医教育プログラムを平成31年度に検証し改善する。</p> <p>①-3 豊かな国際感覚を備えた人材を養成するため、平成28年度に地域科学部に国際教養コースを設置し、学外研修や多文化共生型の教育プログラムを実施する。</p> <p>①-4 生命科学分野、環境科学分野、ものづくり分野における人材を養成するため、理工系修士課程にリベラルアーツを含むデザイン思考の共通教育科目を平成29年度までに2科目以上開講するとともに、インフラマネジメントに関する教育プログラムを開講し、イノベーションを支える教育プログラムを実施する。</p>
<p>② 教学IRの結果に基づいて、教育に関する3つの方針（アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシー）を見直すとともに、それらを基にした教育を実践し、教育の質を保証する。</p>	<p>②-1 教育の質を保証するため、アウトカム検証、教学IRの結果に基づいて教育に関する3つの方針（アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシー）を平成29年度までに見直すとともに、シラバス、教育方法、成績評価などに関する教学マネジメントの強化と新たなポリシーに基づく教育を</p>

	平成 30 年度までに実施する。
③ 「岐阜大学の国際化ポリシーとビジョン」に基づき、全学共通教育における英語の教育内容や教育方法を充実する。	③-1 学士課程教育のグローバル化を推進するため、全学共通教育において各学部の人材養成に応じた英語運用能力の基準と目標を平成 28 年度に定め、それに基づき組織化された教員集団による英語教育を実施する。
④ 岐阜大学が目指す 3 つの基盤的能力（進める力、伝える力、考える力）を高めるため、主体的な学びを推進する。	④-1 学生の主体的な学修活動を推進するため、学生参加、共同学習などのアクティブ・ラーニングを取り入れた授業を平成 30 年度までに各学部で 4 科目以上開講する。
(2) 教育の実施体制等に関する目標	(2) 教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置
① 学部・研究科の優れた教育改善の取組を共有することにより、教育の質保証システムを改善・向上させる。	①-1 教育推進・学生支援機構は学部・研究科と連携して学生による授業評価、教員のリフレクション、ナンバリング・システムの導入、FD 活動等に基づく全学的な点検・評価・改善の実施体制（PDCA サイクル）を確立する。
② 社会人の学び直しを支援するため、教育環境を整備する。	②-1 社会人のニーズに応じた教育プログラムを提供するとともに、公開講座、夜間・土日の開講、ICT の活用など、社会人が学びやすい受講環境を整備する。
(3) 学生への支援に関する目標	(3) 学生への支援に関する目標を達成するための措置
① 多様な学生への学修支援、生活支援、就職支援などを推進する。	①-1 教育推進・学生支援機構は学部・研究科と連携してそれぞれ実施している学生への学修支援、生活支援などの支援内容を確認するとともに、役割を明確にした上で実施する。特に障がいのある学生への学修支援、留学生への健康管理支援などに対応する協力体制を確立する。 ①-2 学生のキャリア形成や就職活動を支援するため、全学共通教育で開講しているキャリア形成科目やインターンシップ科目の受講者に対してアンケート調査を行い、その結果に基づいて授業を改善する。
② 勉学の奨励やグローバル人材を育成するための奨学金制度等を充実させる。	②-1 支援学生の増大につなげるため、応援奨学生制度、学生の短期海外研修制度に対する支援額を平成 33 年度までに平成 27 年度比で 20% 以上拡充する。
③ 学部を超えた交流の場として、アカデミック・コモンズを充実し、積極的に活用できる環境を整備する。	③-1 学部を超えた学生の主体的な交流の場としてのアカデミック・コモンズの利用を促進するため、アカデミック・ラーニング・サポート（アカデミック・コモンズにおける主体的学習を促進するための組織）において、学習相談、履修相談、自主ゼミ等の活動を

	支援できる体制を確立するとともに、その活動を担うスチューデント・アシスタント（SA）を年間5名以上育成する。
（４）入学者選抜に関する目標	（４）入学者選抜に関する目標を達成するための措置
① ミッションの再定義及び岐阜大学の国際化ポリシーとビジョンに基づいてアドミッション・ポリシーを見直し、入学者選抜の方法を改善する。	①－１ 多面的・総合的な評価など入学者選抜の方法を改善するため、入学時関連情報と卒業・修了時関連情報を分析し、その結果に基づきアドミッション・ポリシーを平成 29 年度までに見直す。 ①－２ 国際人として身に付けるべき英語によるコミュニケーション力や普遍的な多様性・異文化理解力等を涵養するため、各研究科での人材養成に応じた英語運用能力の基準と目標を定め、入学試験に語学検定試験を活用した学力評価を平成 30 年度までに導入する。
② 地域の教育の拠点としての役割を果たすため、入学者選抜の方法を改善する。	②－１ 地域の教育の拠点としての役割を果たすため、岐阜県教育委員会等と連携して教育学部の入学者選抜に地域卒などを平成 30 年度までに導入する。
２ 研究に関する目標	２ 研究に関する目標を達成するための措置
（１）研究水準及び研究の成果等に関する目標	（１）研究水準及び研究の成果等に関する目標を達成するための措置
① 岐阜大学の強みである生命科学分野、環境科学分野、ものづくり分野において独創的で先進的な学術研究を推進し、持続可能な社会の創生に貢献できる成果を社会に還元する。	①－１ 糖鎖科学研究を基盤とし、比較腫瘍、人獣共通感染症、新規創薬などの医学・獣医学・薬学連携研究をはじめとする次世代生命科学を推進し、その研究成果を社会に還元する。 ①－２ 環境科学、特に流域圏保全学分野において水再生科学研究から流域圏の様々な要素の管理方策を提案するための研究を推進し、自然環境と人間社会の持続性に資する情報を発信する。また、岐阜県との連携により流域圏保全や防災に関する研究を推進し、研究成果を社会に還元する。 ①－３ 再生可能エネルギーも含めた効率的な長期保存を視野に入れたエネルギー貯蔵技術及び安定的活用を発展させる次世代エネルギー研究を推進し、その成果を社会に還元する。 ①－４ 複合材料など新素材を活用した次世代金型研究を推進し、その成果を社会に還元する。
（２）研究実施体制等に関する目標	（２）研究実施体制等に関する目標を達成するための措置
① 生命科学分野、環境科学分野、ものづくり分野における研究を推進するために研究拠点を設置するとともに、拠点に対する学内の支援体制	①－１ 糖鎖科学研究を基盤として、医学・獣医学・薬学連携研究などにおける独創的で先進的な研究を推進するため、研究拠点を平成

<p>を整備する。</p>	<p>29年度までに設置する。</p> <p>①-2 森林・農地、水環境、流域情報を俯瞰する流域圏保全学を学際的研究分野とする全国的な研究拠点として強化する。</p> <p>①-3 複合材料など新素材を活用するものづくり拠点として、次世代金型研究センターを平成28年度に設置する。</p> <p>①-4 研究拠点における研究推進体制を強化するため、研究推進支援人材を研究推進・社会連携機構に配置する。</p>
<p>② 教育の基盤となる質の高い研究を着実に進展させるため、全学的な研究支援体制を整備する。</p>	<p>②-1 大学全体の研究レベルを上げるため、IR分析を踏まえ、リサーチ・アドミニストレーター（URA）による個々の教員に適した支援や助言を含め全学的な研究支援を行うことにより、学術論文公表数を平成33年度までに平成27年度比で5%以上向上させる。</p>
<p>3 社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標</p>	<p>3 社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標を達成するための措置</p>
<p>① 「地域にとけこむ大学」として、地域を志向した教育・研究を全学的に実践し、地域と協働して地域志向人材を育成する。</p>	<p>①-1 「次世代地域リーダー育成プログラム」を実践し、地域を知り、地域の課題を見つけ、地域の課題解決に向けて行動する「地域リテラシー」を習得した「地域志向人材」を平成29年度以降、毎年20名以上、社会に送り出す。</p> <p>①-2 地域の課題発掘及び地域の課題解決に取り組むため、多様な人々が集う「場」としてのフューチャーセンターの運用等を行う。</p> <p>①-3 地域の課題解決に取り組むため、地域ニーズを踏まえた学際的研究など地域志向研究活動を推進する。</p> <p>①-4 「地」×「知」の拠点として継続的・発展的に事業が推進できる体制を構築するため、地域協学センター専任教員を複数名配置するなど学内資源の再配分を行う。</p>
<p>② 地域と大学が連携して大学の資源を活用することで、地域社会が抱える超高齢社会等の課題解決に貢献する。</p>	<p>②-1 地域コミュニティの再生や地域産業の活性化、人口流出抑制・地元定着率向上に向けた地域活性化・振興策についての教育・研究を実施する。</p> <p>②-2 広く地域の要請と期待に応え、地域が抱える諸問題に適確に対応するため、『岐阜大学地域戦略ビジョン（仮称）』を平成28年度に策定し、実行する。</p>
<p>③ 岐阜県と連携し、地域課題に密着した実践的な教育研究を行うことにより地域社会に貢献する。</p>	<p>③-1 岐阜県中央家畜保健衛生所と協働して産業動物の衛生学を中心とした実践的獣医学教育プログラム（産業動物衛生管理総合教</p>

	育)を実施する。 ③-2 清流の国ぎふ防災・減災センターと協働して岐阜県に特有の自然災害に関する防災・減災のための調査研究並びに地域における防災リーダー育成事業を実施する。
④ 産官学連携の推進により、地域産業界の発展に貢献する。	④-1 産学連携に関する広報活動等の拡充を通じて共同研究を推進し、第3期中期目標期間中の共同研究契約総額を第2期中期目標期間の総額比で15%以上増加させる。 ④-2 地域産業界のニーズに応える研究活動を推進するとともに、研究成果の権利化を進め、第3期中期目標期間中の特許出願件数を第2期中期目標期間の件数比で10%以上増加させる。 ④-3 自治体及び金融機関と連携し、地域の特徴を活かしたプロジェクトを創出するなど、地域産業の振興を支援する。
4 その他の目標	4 その他の目標を達成するための措置
(1) グローバル化に関する目標	(1) グローバル化に関する目標を達成するための措置
① 「岐阜大学の国際化ポリシーとビジョン」に基づき、国際化につながる施策を推進するとともに、その成果を地域に還元し、地域社会のグローバル化に貢献する。	①-1 大学の国際化を推進するため、複数の協定大学への海外共同実験室の設置・活用やダブルディグリー・プログラムを推進するとともに、平成31年度を目途にジョイントディグリー・プログラムを整備し実施する。 ①-2 海外高等教育機関との連携ネットワークの強化、インターンシップの推進、教育研究活動への適切な参画モデルの策定等により、外国人留学生の修学・就職支援を強化する。 ①-3 日本人学生の短期海外研修制度の活用や海外留学モデルの構築等により、日本人学生の海外留学生数及び派遣学生数を第3期中期目標期間中に延べ500人以上にする。 ①-4 教員の海外研修及び海外留学を推進するとともに、事務職員を対象とした海外実務研修制度を整備する。 ①-5 地域企業のグローバル化に関するニーズ等を踏まえ、本学の国際化活動に関してIR分析を行い、地域社会のグローバル化支援に活用する。 ①-6 応用生物科学研究科及び工学研究科における秋入学を活用した英語による教育コースの点検・改善及び地域科学部における国際教養コースの設置等により、日本人・留学生の混在型教育を実施する。

(2) 附属病院に関する目標	(2) 附属病院に関する目標を達成するための措置
① 特定機能病院として、さらに高度な医療を提供する。	①-1 地域連携の基盤に立ち、先進・高度医療、難治性疾患等の拠点病院機能を強化するとともに5疾病5事業（5疾病：がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病、精神疾患、5事業：救急医療、災害時における医療、へき地の医療、周産期医療、小児救急医療を含む小児医療）に関して更なる先進的な医療が行えるよう機能を強化する。
② 様々な医療を必要とする患者の視点に立った、地域の中核となる医療人を育成する。	②-1 診療参加型臨床実習及び初期臨床研修による卒前から卒後臨床研修までの一体的な教育体制を強化するとともに、地域連携プログラムを利用し、自治体等と連携して、地域医療を担う人材を育成する。
③ 拠点病院の機能を活用し、臨床研究の推進と新たな医療技術の開発を遂行する。	③-1 先端医療・臨床研究推進センターの運営基盤を整備するとともに、近隣の医療系大学との共同研究や中部先端医療開発円環コンソーシアムにおける他の大学附属病院等との協力体制を活かし、先進的な臨床研究の推進及び医療技術の開発を行う。
④ 迅速な経営判断に基づく経営基盤の強化と効率的な組織運営を行うことにより、自立的な経営を確立する。	④-1 多角的な経営分析に基づく迅速な経営判断を行うため、病院長経営戦略室に経営課題毎のプロジェクトチームを設置し検討を行う。また、その検討結果に基づき、コスト削減等の経営改善を行い、経営基盤を強化する。
⑤ 災害時に地域の基幹病院、特定機能病院及び高度救命救急センターとしての役割が果たせる体制を整備する。	⑤-1 院内各部署の災害時の病院機能の継続（BCP）を一元化して、方針・計画を発展的に見直すとともに、実施及び運用等の取組フローを整備し、継続的な改善により不足している点についての対応策を構築する。また、地域医療機関等との連携を強化し、県の災害基幹病院として求められる役割を遂行する。
(3) 附属学校に関する目標	(3) 附属学校に関する目標を達成するための措置
① 学校現場が抱える教育課題について先導的、実験的に取り組むことにより、地域の教育力の向上に貢献する。	①-1 学校現場が抱える教育課題の解決に寄与するため、附属学校の教育目標のもとに各教科や特別活動等の教材と指導方法を開発し、その成果を岐阜県小・中学校教科研究部会や地域の学校等に還元するとともに、教育学部・教育学研究科の教育・研究に反映する。 ①-2 教育学部・研究科の協力の下、ICTの活用やグループワークを通してアクティブ・ラーニングを推進するとともに、その教育成果を学部教育、大学院教育に還元する。
② 教育学部・教育学研究科の実践的な教育・研究に組織的に協力するこ	②-1 教育学部が取り組んでいる理論と実践の往還型学修（ACT プラ

<p>とにより、学部・研究科の教育研究活動の充実に貢献する。</p>	<p>ン)を更に強化するため、1年生を対象とした観察実習(トライアル)と3年生を対象とした教育実習(プラクティス)の教育効果を検証し、新たな時代に対応した教育実習の指導体制を整備する。</p> <p>②-2 教育学部・教育学研究科の教員の実践的指導力を高めるため、附属学校における授業観察、教材開発、授業実践等の受入体制を整備することにより、学校現場における同学部・研究科教員の指導経験の割合を平成33年度までに80%以上とする。</p>
<p>II 業務運営の改善及び効率化に関する目標</p>	<p>II 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置</p>
<p>1 組織運営の改善に関する目標</p>	<p>1 組織運営の改善に関する目標を達成するための措置</p>
<p>① 学長のリーダーシップによる大学経営・組織運営のための体制を整備し、実効性のある運営を推進する。</p>	<p>①-1 迅速、適確な意思決定やリスク・マネジメントなどガバナンス機能の強化に向けて継続的に大学経営・組織運営体制の見直し・改善を行う。</p> <p>①-2 本学の教育・研究活動等に意欲を持って取り組む若手教員を増やすため、平成28年度以降に採用する助教には原則としてテニユアトラック年俸制を適用し、年俸制適用の専任教員の割合を平成33年度までに10%以上とする。</p> <p>①-3 効果的かつバランスの取れた組織運営を行うため、全学的視点や社会的要請等を勘案した取り組みに対し、学内資源の再配分を戦略的に行うとともに、経営協議会の外部委員等の意見を活用する。</p> <p>①-4 学長のリーダーシップが発揮できる環境に関する事項、ガバナンスや内部統制に関する体制等について内部監査を定期的実施する。また、監事機能強化の趣旨を踏まえ、監事監査の結果等については、監事との協議により引き続き業務に適切に反映させる。</p>
<p>② 女性・若手・外国人・障がい者等、多様な人材が活躍する環境を整備するとともに、女性研究者の育成と登用を促進する。</p>	<p>②-1 女性・若手・外国人・障がい者等多様な人材の能力を、大学組織が必要とする創造性・革新性、変化への柔軟性を高める観点から活用する。特に、教員に占める女性の割合を平成33年度までに21%以上に増やす。</p> <p>②-2 育児・介護等にあたる研究者のニーズを踏まえ、研究補助員配置制度の利用促進など、研究支援体制を強化する。また、女性研究者の研究力向上につなげるため、近隣大学や民間企業等と連携して、平成33年度までの期間において、学内公募型の研究費助成</p>

	制度により、10%以上の女性研究者を支援する。 ②-3 意欲と能力のある女性職員の登用促進策を検討実施し、管理職における女性の登用率を平成33年度までに7.8%以上とする。
③ 評価制度を充実させることにより、個人の能力及びその総体としての組織力を高め、大学を活性化させる。	③-1 年俸制の導入に合わせて教育職員個人評価制度を見直し、評価結果を数値化することによりメリハリのある評価システムを構築する。
2 教育研究組織の見直しに関する目標	2 教育研究組織の見直しに関する目標を達成するための措置
① 強み・特色を明確にした大学を形成するため、ミッションの再定義を踏まえた教育研究組織の再編・整備を推進する。	①-1 IR機能を積極的に活用し、学部・研究科の人材育成像、社会構造の変化等を踏まえた教育研究組織の点検・見直しを行う。 ①-2 社会環境の変化等に対応した理工系人材を育成するため、修士課程を中心とした再編整備を行う。 ①-3 大学院連合獣医学研究科の再編を含め、大学院における獣医学教育を充実する。 ①-4 所属の枠を超えた全学的な教員組織体制を整備し、機動的な組織運営を行う。
3 事務等の効率化・合理化に関する目標	3 事務等の効率化・合理化に関する目標を達成するための措置
① 事務処理の効率化・合理化を推進するとともに、適正な人事計画により事務組織力を高め、大学経営・組織運営のサポート体制を充実させる。	①-1 職員研修、資産運用等の事務処理の改善に向けて東海地区の国立大学法人間連携による取り組みを進める。 ①-2 業務フローの点検・見直しを行い、電子決裁による業務フローシステムを構築する。 ①-3 年齢構成、業務経験等を考慮した適正な人事配置を行うとともに、本学の卒業生や民間企業等の勤務経験者など多様な人材を採用する。
Ⅲ 財務内容の改善に関する目標	Ⅲ 財務内容の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置
1 外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加に関する目標	1 外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加に関する目標を達成するための措置
① 自己収入を増加させ、安定した財政基盤を維持する。	①-1 プロジェクト・ディレクター制度（科学研究費助成事業の申請書作成支援制度）を見直して個々の教員に適した支援体制を確立し、科学研究費助成事業の第3期中期目標期間中の目標総額を48億円とする。 ①-2 必要となる獣医師を確保するとともに大型診療機器を計画的に更新するなど、中部地域における高度先進獣医療を提供する中核

	<p>動物医療施設としての機能を強化するため、附属動物病院の自己収入を増加させる。</p> <p>①-3 留学生支援、国際交流、特色ある研究活動及び地域貢献などを充実・発展させるため、卒業生・地元企業・職員への募金依頼を積極的にを行い、岐阜大学基金の第3期中期目標期間中の受入目標総額を1億5千万円とする。</p>
2 経費の抑制に関する目標	2 経費の抑制に関する目標を達成するための措置
① 財務データを分析することにより、学内資源の重点配分、一般管理費率の抑制等を推進する。	<p>①-1 財務分析に基づいた適切な予算管理や配分を通じて、改革ビジョンに沿った事項へ学内資源を重点配分する。</p> <p>①-2 教職員のコスト削減に関する意識の徹底、各種契約の見直しなどにより、業務費に対する一般管理費の比率を3.2%未満に抑制する。</p>
3 資産運用管理の改善に関する目標	3 資産運用管理の改善に関する目標を達成するための措置
① 保有資産の効果的、効率的な運用を推進する。	<p>①-1 土地、建物などの利用状況の点検・評価を行い、外部への貸出等有効活用を進める。</p> <p>①-2 有価証券、預貯金等の収益を学長裁量経費の財源として充てるため、有価証券等を引き続き安全で効率的に運用する。</p>
IV 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標	IV 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するためにとるべき措置
1 評価の充実に関する目標	1 評価の充実に関する目標を達成するための措置
① 評価方法及び体制を充実することにより、より効果的な自己点検・評価活動を実施し、組織運営の改善につなげる。	<p>①-1 評価室の行う評価業務を継続的に見直し、評価室規程や評価業務実施要項、評価方針等を改正し、評価業務をより適切に実施する。</p> <p>①-2 保有データや分析結果の共有などを通じ、評価業務における評価室とIR室の連携を強化する。</p> <p>①-3 ミッションの再定義で明らかとなった各組織の特性や強みについて組織評価を実施する。</p>
2 情報公開や情報発信等の推進に関する目標	2 情報公開や情報発信等の推進に関する目標を達成するための措置
① 情報発信方法を改善し、より広い範囲に本学の実情や教育・研究活動の成果の発信を行うことにより、広報実践力を高め、大学の説明責任を果たす。	<p>①-1 効果的な情報発信を行うため、広報内容に応じて、発信の時期、内容及び媒体の選択等を戦略的に企画・実施するとともに、その効果を随時検証し、広報方法を改善する。</p> <p>①-2 閲覧者の目的に応じた情報の提供ができるよう、本学ウェブペー</p>

	<p>ジにおける情報内容及び提示方法を検証し改善する。</p> <p>①-3 国際版ウェブページの充実、海外協定大学の活用、職員の語学力の向上により国際的な情報の発信力を強化する。</p>
V その他業務運営に関する重要目標	V その他業務運営に関する重要目標を達成するためにとるべき措置
1 施設設備の整備・活用等に関する目標	1 施設設備の整備・活用等に関する目標を達成するための措置
① 大学の教育研究に関する目標の実現や、経営的視点を踏まえたキャンパス全体の整備構想に基づき、良好な教育研究環境を形成する。	<p>①-1 キャンパスマスタープランに基づき、計画的な整備を行う。</p> <p>①-2 強みや特色を生かした教育研究の充実に向け、環境へ配慮した大学運営を行うとともに、既存施設の点検を行い、点検結果に応じ活用方法を改善する。</p> <p>①-3 PFI 事業（岐阜大学総合研究棟施設整備事業）を引き続き推進する。</p>
2 安全に関する目標	2 安全に関する目標を達成するための措置
① 事故等を未然に防止するため安全管理体制及び危機管理体制を整備し、学生、教職員の安全確保や意識向上を通じた安全文化を醸成する。	<p>①-1 学生、教職員の安全環境に対する意識向上に資するため、対象者ごとにきめ細かい各種講習会（作業環境測定説明会、薬品管理支援システム取扱説明会等）を実施し、災害、事件・事故等や日常業務に対応する安全衛生教育を推進する。</p> <p>①-2 大規模災害等に対する危機管理体制について点検を行い、体制を強化する。</p>
3 法令遵守に関する目標	3 法令遵守に関する目標を達成するための措置
① 学内規則を含めた法令遵守の徹底及び情報セキュリティ対策の強化を行い、適正かつ円滑な法人運営を実施する。	<p>①-1 学内規則を含めた法令遵守を徹底するため、法令遵守に関するマニュアルを改訂するとともに、教職員に対する研修を実施する。</p> <p>①-2 情報管理を徹底するため情報セキュリティ最高責任者（CISO）のもとに設置された情報管理対策室を中心に、定期的な情報セキュリティ管理体制の点検、全構成員に対する情報セキュリティ教育の徹底などを実施する。</p>
② 研究における不正行為、研究費の不正使用を未然に防止するため、倫理教育の強化等による不正を未然に防止する体制、組織の管理責任体制を整備する。	②-1 研究不正、研究費不正に対する啓発活動や監査機能を強化するとともに、対象者ごとに参加を義務付けたきめ細かい研修を実施する。

別表 1 (学部、研究科等)

学 部	教育学部 地域科学部 医学部 工学部 応用生物科学部
研究科	教育学研究科 地域科学研究科 医学系研究科 工学研究科 応用生物科学研究科 連合農学研究科 〔岐阜大学〕 〔静岡大学〕 ※連合大学院である 連合獣医学研究科 〔岐阜大学〕 〔帯広畜産大学〕 〔岩手大学〕 〔東京農工大学〕 ※連合大学院である 連合創薬医療情報研究科 〔岐阜大学〕 〔岐阜薬科大学〕 ※連合大学院である

別表 2 (教育関係共同利用拠点)

【教育関係共同利用拠点】 医学教育開発研究センター

別表 (収容定員)

学 部	教育学部 (うち教員養成に係る分野 地域科学部 医学部 (うち医師養成に係る分野 工学部 応用生物科学部 (うち獣医師養成に係る分野	1,000 人 1,000 人) 420 人 850 人 510 人) 2,100 人 840 人 180 人)
研究科	教育学研究科 〔うち修士課程 専門職学位課程 地域科学研究科 (うち修士課程 医学系研究科 〔うち修士課程 博士課程 博士課程前期 博士課程後期 工学研究科 〔うち博士前期課程 博士後期課程 応用生物科学研究科 (うち修士課程 連合農学研究科 (うち博士課程 連合獣医学研究科 (うち博士課程 連合創薬医療情報研究科 (うち博士課程	138 人 98 人 40 人 40 人) 244 人 16 人 188 人 22 人 18 人 631 人 550 人 81 人 178 人 178 人) 60 人 60 人) 80 人 80 人) 18 人 18 人)